

WPIプログラム

フォローアップ結果の公表に当たって（委員長メッセージ）

WPIプログラムにおいては、世界トップレベル研究拠点の形成のため、毎年度、WPIプログラム委員会によるきめ細やかなフォローアップを実施しています。

2007年度のプログラム開始から8年目の2014年においては、全9拠点に関する過去一年間の活動に関するフォローアップを行うと共に、補助金支援期間として当初予定していた10年間の大半を終えつつある2007年度採択の5つの拠点については、過去8年にわたる取組みについて包括的なフォローアップを行いました。フォローアップは、ノーベル賞受賞者を含む国内外のトップレベルの科学者等により構成するプログラム委員会により、拠点のアイデンティティ、サイエンス、分野融合、国際化、組織改革等の多角的な観点から実施されました。

この結果、5拠点ともに、プログラム開始当初の目的とされていた世界トップレベル研究拠点という地位（world premier status）を確立したという、高い評価がなされました。優れたサイエンスの成果をあげるとともに、分野融合で新たな学問を形成しようとする努力、平均4割が外国人という真に国際的な研究環境の実現、年俸制・クロスアポイントメント等先駆的な制度改革など、WPI拠点の取組みは、拠点のみならず、ホスト機関、ひいては我が国全体の研究システムにインパクトを与えたと言えます。

過去8年間のプログラム期間中に、こうした成果を挙げた5拠点の努力に対して、プログラム委員会の委員長として最大限の賛辞を送りたいと思います。

なお、WPIプログラムそのものを持続可能なものとするためには、長期のビジョンに立って、新しい拠点の採用を一定の割合で続けていかねばなりません。そのため、今回はKavli IPMUのみ一定の補助金支援の継続（5年間）が適当と評価しましたが、いずれの拠点もプログラム発足当初に約束されていたとおり、補助金支援期間終了後は、こうした優れた成果をホスト機関において引き継ぎ、ホスト機関の資産として大切に育てて頂くこととなります。ホスト機関の今後一層の努力を期待いたします。プログラム委員会としても、ホスト機関がWPI拠点を維持していきやすいよう、必要なサポートを行っていく所存です。

2015年2月13日

WPIプログラム委員会 委員長 井村 裕夫